

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3072400538		
法人名	(株)イクロス		
事業所名	グループホーム パル白浜		
所在地	和歌山県西牟婁郡白浜町2927-80		
自己評価作成日	平成29年9月30日	評価結果市町村受理日	平成30年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JizyosyoCd=3072400538-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成29年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設も開所し、14年が経ち、利用者様も高齢となっています。今年に入り数名の方を看取らせて頂きました。利用者様が、ターミナルの状態になった時、職員一同、その方らしい最後を迎えられる為に、支援するよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「共に笑顔で過ごそう」と掲げた理念の基、経年の中で利用者の身体状況や認知症が重度となり、意思表示や会話が困難な方も多く、本人の思いを探りながら少しでも多くの笑顔が見られるよう一人ひとりに合ったケアやコミュニケーションを考え支援をしています。散歩やドライブ、地域行事への参加の他、季節に合わせた桜の花見や紅葉狩りなど多くの外出の機会を設け楽しんでもらったり、食事では利用者と共に食材の買い物に行き、できることに携わってもらいながら食事を作り、職員も共に食卓に着き家庭的な団らんの中で食事を楽しめるよう支援しています。また終末期の支援では、医師や家族と話し合いを重ねながら職員間では本人にとってより良い支援が提供できるようケアの方法や向き合う姿勢などについて話し合い取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を意識しながら、日々の介護に活かし、支援できるよう努力している	職員が笑顔で接することが利用者の笑顔に繋がるとの思いを込め「共に笑顔で過ごそう」と独自の理念を掲げています。職員は日々笑顔を心がけると共に職員会議の中で職員に意見を聞き、理念を意識した上で年度目標を決め、会議などで達成状況を確認しています。職員の入職時には理念に込められた思いを伝え共有に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年の敬老会や夏祭りなど、参加させて頂き、交流できるようにしている	散歩時などに会った地域の方とは挨拶を交わしています。町の敬老会や小学校で行われる地域交流会の演奏会、地域の祭りなどに出かけたり、神社の祭りでは御輿がホーム前を訪れ見学する他、人形劇や歌の披露などのボランティアが来訪し交流するなど良好な関係を築いています。また定期的な認知症カフェの開催など地域交流を意識した取り組みを行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域とつながりをもてるよう努力し、発信につなげている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日常や支援内容などすべて報告し、意見を伺い活かすようにしている	会議は併設3事業所合同で隔月に開催し家族代表や地元の商店主、町職員、地域包括支援センター職員などの参加を得ています。ホームの状況や行事、研修や事故報告などを行い意見交換をしています。運営推進会議のあり方を話し合ったり、認知症カフェの取り組みについてアドバイスをもらい町内に案内文を配るなど、運営に活かせる有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告する旨は伝え、信頼関係が、できるよう努力している	町担当者は運営推進会議に参加を得ており、ホームの状況を把握してもらおうと共に施設長が頻りに役所に出向き多くの関わりを持っています。また介護相談員の受け入れや虐待の研修に町職員に講師として来てもらうなど良好な協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を意識しており、間違った行動ではないかと振り返り、ケアしている	入職時の研修の中や年に1度身体拘束に関する法人研修を実施すると共に外部研修の内容を職員に伝達し理解を深めています。夜間以外は玄関やエレベーターの施錠は行わず、職員間で言葉による拘束についても主体的に随時意見交換が行われており、拘束のない自由な暮らしを支援しています。	

グループホーム パル白浜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、外部講師による研修を受け、学び、職員同士でも意識しながらケアに、取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修などに参加し、知識を深め、必要性に応じ、関係機関と連携を取り、活用できるように支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の段階において、十分な説明を行い、納得してから契約させて頂き、改定等に対しても同じようにし、理解・納得に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議等で、意見や要望を表わせるよう配慮し、介護相談員の訪問も受け、機会を設けている	家族の来訪時には利用者の状況や様子を伝え意見が無いかを聞いたり、来訪の少ない家族には電話連絡の際に聞いています。外出についての意見が寄せられ、ドライブや利用者の体調に合わせた外出を取り入れる等、職員間で検討し利用者全体への支援に結びつけています。個別の要望についてはその都度対応しています。また定期的に介護相談員が来訪し利用者の声を聞いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段の中でも職員の意見や提案を聞くようにし、必要であれば、話し合いを持ち反映できるようにしている	隔月に開催する職員会議やミーティングなどで職員の意見を聞いています。職員は物品購入や利用者の状態に合わせた手すりの増設などの意見を出しており、法人や施設長の判断を仰ぎ設置に繋がっています。また職員は日々自由に意見を出しており、ケアに関する意見が出された際は随時ミーティングを開いて検討し、変更内容はケアの統一に向け職員間で共有しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップを出来るシステムを設けながら、個々のレベルアップに協力し、向上心をもてるような職場となるよう努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力を把握し、外部研修などに参加できるように配慮し、社内研修へも参加してもらい、スキルアップにつながるよう努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修への参加などで、交流の機会を設け、その際に習得した情報・意見など、サービスの質の向上の為に取り入れている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階より、本人からの明確な要望を聞く事は難しい場合が多い為、家族からの要望などを聞き、周りからも情報収集を行い、本人の安心を考えた関係を作れるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の事を考慮した上で、家族の不安や要望を聞き、家族にも安心して頂けるような信頼関係を築く努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々な情報を収集し、本人の状態も確認、見極め本人と家族が必要としている支援ができるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人一人の状態に合わせ対応し、本人本位の生活を送れ、共に生活しているのを感じて頂けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にも色々な事情があり、難しい所もあるが、利用者様と家族の絆を大切に思い、共に利用者様を支える関係作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の高齢化もあり、難しい場合が増えてきているが、出来る限り関係が途切れないよう支援するように努める	利用者の孫など親戚が来訪した際は居室に案内しゆっくり過ごせるよう配慮をしています。併設施設の行事に参加し知人と楽しんだり、職員が故郷の兄弟宅に付き添い会いにいったこともあり、またコミュニケーションが困難な方の自宅周辺をドライブすると言葉が見られたこともあり、馴染みの関係を大切に支援しています。利用者が高齢になり記憶も希望も少なくなっていますが希望が出された際は馴染みの関係継続の支援に繋げています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時々の変化や各々の性格や個性を把握し、利用者同士が関わり、支え合えるよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了は、利用者が亡くなる場合が多い為、その後の関係は自然と薄れてしまう。偶然出会って挨拶する程度となっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を理解できるよう努力する事で、自己決定の場を設けるようにし、可能な限り、本人本位の暮らしができるよう努めている	入居時に本人や家族と面談を行いこれまでの状況を聞いたり、担当していたケアマネジャーからの情報を合わせて意向の把握に努めています。入居後は関わりの中で本人の思いや職員が気付いた事柄、面会時に家族から聞いた情報を記録し職員間で共有しています。思いの把握が困難な方も多く、笑顔が見られた時の様子等を基に思いを探り、ミーティング等で検討し把握できるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限り本人から情報を集められるようにし、家族やケアマネジャーや関係者からの情報収集によって把握できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日一日の生活を通して、過ごし方や心身状態、有する能力の変化に注意し、現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の本人の状態を見ながら、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見を反映し、本人本位の暮らしが出来るよう現状に即した介護計画を作成している	本人の希望、来訪時や電話などで確認した家族の意向を下に介護計画を作成しています。3ヶ月毎に個人記録や職員の意見を参考にモニタリングを行い、小さな変化については介護計画に追記し、状態が変化した場合や介護保険の更新時には再アセスメントを行い介護計画を見直しています。必要に応じて医師の意見を介護計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別記録の記入を行い、職員間で気づきを大切に、情報を共有し介護計画の見直しに活かし実践に活かしている		

グループホーム パル白浜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度生じる本人のニーズに対応し、必要に応じた支援を行い、柔軟な対応を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時折、ボランティアに訪問してもらい、違う雰囲気を感じてもらったり、各々の能力に合わせた避難方法や経路を知る事で、安心した暮らしができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	引き続き、往診対応で、適切な医療が受けられるよう支援している	入居時に以前のかかりつけ医を継続できる事を伝え、継続している方は本人の状況を伝え家族と共に受診し、急な受診は職員が付き添っています。往診医の月2回往診があり、体調の変化時は随時の往診を受けたり、併設施設の看護師や訪問看護師に相談し指示をもらい対応しています。必要に応じて訪問歯科を受けることができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、変化する利用者の心身の状態や気づきを、訪問看護に伝え、助言または医師との連携で、適切な医療が受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が安心して治療できるよう心掛け、退院後も本人が本通りに生活できるよう訪問看護師や往診の医師に連絡を密に取り、情報交換や相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人との話し合いは出来ていないも、家族には入所時に説明させて頂き、重度化した際には家族・医師必要な方々とカンファレンスを行い、チームケアに取り組んでいる	入居時は看取り指針を基に簡単な説明を行い、状態が変化した場合に医師から家族へ状況の説明が行われ改めて家族の意向を確認しています。ホームで最期を迎えるにあたっては家族と何度も話し合い、面会を多くするなど家族のできることへの協力を得ながら本人にとってより良いケアを考えながら支援に取り組んでいます。また支援を行う際はミーティングを開きケアの方法や向き合う姿勢などについて職員間で話し合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	必ず年一回の訓練と緊急時の対応に関する研修を行い、実践力を身に付けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の訓練を行い、利用者にも参加して頂き、力に応じた避難方法や経路を確認している。白浜消防署などにも協力をお願いし、家族との協力体制も築くよう努めている	年に2回消防署の協力の下、昼夜を想定した避難誘導や水消火器の使用方法などの訓練を利用者にも参加してもらい実施すると共に火災報知機の業者による出火場所の確認方法などの訓練も行っています。運営推進会議で訓練の案内と報告を行い、地震の際の地域の避難所となっており、水や食料などを備蓄しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格に配慮した声掛けや対応を行い、尊厳を保ち、プライバシーを損ねることのないように注意している	接遇やマナー、プライバシーについては入職時研修の中で職員に伝えています。日々の中では挨拶や利用者を尊重した言葉掛け、外部の人が聞いても不快感を与えない丁寧な言葉かけや対応をするよう職員に伝えています。利用者の分かりやすい愛称などで呼ぶ際には家族の了解を得ており、不適切な対応が見られた時は職員間で互いに注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定して頂けるような対応を心掛け、思いを表出できない利用者には、表情などに注意し、可能な限り自己決定に近い支援になるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先する時もあるが、可能な限り、本人のペースを大切に、本人に合わせた一日を過ごす事ができるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り本人の好みに選んで頂き、おしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。表わせない利用者には、家族様が選ばれたものや似合うものを選ぶよう配慮している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好きな献立にしたり、個々の力に応じた準備や片付けを職員と一緒にできるよう支援している	献立は利用者が好きな寿司や炊き込みご飯などを取り入れ、魚や肉などが重ならないよう月毎に纏めて決めています。買い物から調理まで利用者にはできることに携わり、職員も利用者の中に入り談笑しながら同じ食事を摂っています。誕生日には好みのメニューにしたり、お節料理やバーベキュー、クリスマス料理など季節感や楽しめる献立を企画したり、弁当を作って花見やとれとれ市場での外食、回転寿司なども取り入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に、食事量や水分量を記録し、不足時には、好みの物や補助食品などで補うようにし、体調に合わせた食事の形態やメニューに変更している		

グループホーム パル白浜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力に合わせた、口腔ケアの支援を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の負担にならないように、可能な限りトイレの排泄が行えるよう、個々の力や排泄パターンに応じた声掛けを行っている	個々の排泄リズムを把握し、トイレへの声掛けや誘導を行っています。夜間のみポータブルトイレを使用したりおむつやパッドを使用する際は家族とも相談し決めています。重度の利用者も増えていますが本人の希望を大切にできるだけトイレで排泄ができるよう手すりの増設などの環境を整えながら現状が維持できるよう支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトなど取り入れたり、水分摂取量に注意したり、医師や訪問看護師に相談し、薬で調節し対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	温泉を引いた大浴場は、入浴の曜日や時間帯が決まっているが、個々のニーズや希望に合わせた支援を行っている	入浴は週3回を目安に利用者の体調を考慮しながら午後から入ってもらっています。浴槽には温泉が引いてあり、好みの石鹸を使用したり、季節の柚子湯なども楽しんでもらい職員とマンツーマンでゆっくり入ってもらっています。入浴を断る方には時間を置いたり職員の交代など工夫しながら無理のない入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、個々の居室や共有スペースで過ごして頂き、夜間は各々の居室で休まれる。その際は、室温や入眠状態に気を配り、安心して頂けるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬している薬について、職員はほぼ理解しており、個々の力に応じて支援を行い、症状の変化に注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の中で、その方の出来る事をして頂き、充実感や喜びを感じてもらえるよう支援し、季節の行事を取り入れ楽しんで頂けるよう努めている		

グループホーム パル白浜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調を見ながら、外出できる機会があれば、支援している	気候の良い時は近隣の散歩や買い物、ドライブを兼ねて海を見に行くなどしています。地域の演奏会や敬老会、神社の祭りなどの地域行事に出かけたり、航空ショーや道の駅での外食、季節に合わせて梅や桜などの花見に行き、今後は紅葉狩りを予定しています。またベランダや庭のあずまやで日光浴や気分転換を図るなど科移出や外気に触れる機会を多く作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができない利用者が多く、ほとんど所持されていない。本人の希望があれば、少額を持って出掛けるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら、電話をかけたり、手紙を書こうとされる事が見受けられない。字が書ける方は、機会があれば手紙を書けるよう促している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の構造上難しい点のあるが、利用者の居心地を考慮するよう努めている。季節感を感じて頂ける飾りつけも行っている	風光明媚な場所にあるホームからは美しい海や四季の移り変わりを眺めながら過ごすことができます。テレビの前のソファや数種類の椅子を置き好みの場所を選べるようにしたり、利用者の相性や車椅子の移動を考えテーブルの配置や利用者の座席を決めています。また利用者が出入りしやすく改修したベランダで花火を見学したり、手摺りの増設など、少しずつ改修を重ね過ごしやすい環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のソファで自由に過ごして頂けるようにしている。テーブルも利用者の相性で居心地がよくなる工夫をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みのものを置いたり、居心地よく過ごして頂けるよう工夫している	入居時に大切な物や愛用品、常に身近に置いていた物などを自由に持ってきてもらうよう伝えていきます。家族の写真を持参し飾ったり、ラジカセで好きな音楽を聴く方もいます。またこれまでの暮らしに合わせて使っていた座布団や炬燵を置いたり、畳を入れ布団を敷いて休む方もおり、生活習慣に合わせて安心して過ごせる居室となるよう支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のできる事を理解し、力に応じた生活ができるよう工夫し、安全に過ごして頂けるよう努力している		